

# 授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2019年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	加畑 誠一 鈴木 健司(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での建築計画は、計画原論、建築設備、計画各論、建築史とその出題範囲が広範囲に及ぶ。1、2年又は3年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、建築材料のサンプルなどを使用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第15回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・気候・空気</li> <li>・熱</li> <li>・光</li> <li>・音</li> <li>・色彩</li> <li>・用語と単位</li> </ul>
第16回～ ～第29回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空気調和設備</li> <li>・給水設備</li> <li>・排水・衛生設備</li> <li>・電気・照明設備</li> <li>・消火・防災設備</li> <li>・省エネルギー</li> <li>・建築設備の用語</li> </ul>
第30回～ ～第45回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅建築</li> <li>・商業建築</li> <li>・文化施設</li> <li>・教育施設</li> <li>・医療・福祉施設</li> <li>・各部計画</li> <li>・建築生産</li> <li>・都市計画</li> </ul>
第46回～ ～第47回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築史</li> </ul>
第48回～ ～第49回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学力判定試験</li> </ul>
第50回～ ～第51回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直前対策講座</li> </ul>

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

# 授 業 概 要

## 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2019年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	宮野人至(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での建築法規は、学科試験4科目の中の重要科目の一つである。1、2年又は3年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・用語の定義</li> <li>・確認申請</li> <li>・面積・高さ</li> <li>・手続き</li> <li>・採光</li> <li>・一般構造①</li> <li>・一般構造②</li> </ul>
第21回～ ～第22回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力判定試験、個別補修</li> </ul>
第23回～ ～第41回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用途地域</li> <li>・避難施設</li> <li>・構造</li> <li>・防火区画</li> <li>・内装制限</li> <li>・建築士法</li> <li>・高さ制限</li> <li>・雑則</li> <li>・その他関連法令</li> </ul>
第42回～ 第46回～	学科試験対策 学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習テスト</li> <li>・総合学力判定試験</li> </ul>
第50回～ ～第51回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直前対策講座</li> </ul>

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築構造	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2019年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	田川 典幸 崎田 由紀(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での構造は、構造力学と一般構造の二科目を兼ね備えた試験4科目の中の一つの重要科目である。1・2年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～  ～第29回	学科試験対策 (一般構造編)	ガイダンス 荷重、外力 構造計画 地盤、基礎 木造 鉄筋コンクリート造 壁構造 鉄骨造
第30回～  ～第58回	学科試験対策 (構造力学編)	力のつり合い 反力 応力 トラス 断面の性質 座屈 応力度

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2019年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	斉藤 亮介 高内 めぐみ(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	2級建築士試験科目での建築施工は、学科試験4科目の中の重要科目の一つである。1、2年又は3年での基礎をふまえて、2級建築士試験の合格を目標として勉強する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～  ～第20回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・契約</li> <li>・施工計画</li> <li>・管理計画</li> <li>・仮設工事</li> <li>・地盤・土工事・基礎</li> <li>・鉄筋工事</li> <li>・型枠工事</li> <li>・コンクリート工事</li> <li>・鉄骨工事</li> <li>・コンクリートブロック工事</li> <li>・ALCパネル・押出成形セメント板工事</li> </ul>
第21回～ ～第22回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力判定試験、個別補修</li> </ul>
第23回～  ～第41回	学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策 学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木工事</li> <li>・防水工事・屋根工事</li> <li>・左官工事</li> <li>・タイル石工事</li> <li>・塗装工事</li> <li>・建具・ガラス工事</li> <li>・内装工事</li> <li>・改修工事</li> <li>・設備工事</li> <li>・施工機械・器具</li> <li>・測量</li> <li>・積算・見積</li> </ul>
第42回～ 第46回～	学科試験対策 学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習テスト</li> <li>・総合学力判定試験</li> </ul>
第50回～ ～第51回	学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直前対策講座</li> </ul>

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週



# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計製図	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	10単位(328時間)	開講・履修期	2019年度・1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	新井 長秀・加畑 誠一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	2級建築士試験の二次試験である設計製図試験のための知識・技術を修得し、本試験において必ず合格できる実力を養うことを目標とする。 授業項目順に講義・演習を行い、後半は模擬試験形式で実力を養い試験に備える。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第45回	製図試験対策 製図試験対策	ガイダンス 各図面の作図手順説明・演習  平面図 屋根・床伏図 断面図・立面図 部分詳細図 作図トライアル
第46回～ ～第80回	製図試験対策 製図試験対策	課題文の読取り手順説明・エスキス演習 課題文の読取り方の説明  エスキスに使う単位の説明 敷地の使い方(有効利用)の説明 プランニングの基本を説明 建物の想定床面積の計算 エスキスの実践
第81回～ ～第115回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・課題文の読取り・エスキス・作図 試験時間5時間で完成させるための練習
第116回～ ～第164回	製図試験対策 製図試験対策	製図試験対策・・・模擬試験 模擬試験形式で課題をこなし、多様な課題に対処できるように練習

※・1単位時間45分(90分授業) ・前期23週、後期19週 年間計42週

# 授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリア設計	開講学科	建築設計研究科(建築コース)	修業年限	昼間部1年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2019年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹(自らのデザイン事務所を17年主宰している、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「コミュニティ・ハブとしての役割を果たし、文化をつくっていく施設とは」商業施設及び店舗の実地を調査し、「街づくり」の本質をインテリア設計から見抜く目を養う。また空間づくりの専門的な知識・設計基本を学び、知恵へと膨らませる。その集大成として、自身で企画した施設を実地区画に設計。模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や専門機関ショールームの見学など、実地レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドや実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。立地調査からコンセプト・デザイン・設計を施設のカタチにまで造り上げることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	インテリア設計とは※街づくりにおける、インテリア設計の考え方 商業施設・店舗の実例をもとに、実践したプレゼンテーションをおこなう
第2回	2. 課題現地調査	商業施設及び店舗、課題地調査
第3回～	3. 課題現地調査書作成①	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成①
	4. 課題現地調査書作成②	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成②
第9回～	5. 調査書プレゼンテーション	現地調査書、プレゼンテーション(各グループ単位)、グループ別講評
第11回	6. インテリア設計概論	実地施設/店舗における、コンセプト作り、平面ゾーニング、平面計画等の概論
第12回～	7. 平面ゾーニング・計画①	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成①
	8. 平面ゾーニング・計画②	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成②
第18回～	9. 設計図書製作①	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成①
	10. 設計図書製作②	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成②
	11. 設計図書製作③	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成③
第26回～	12. インテリア模型製作①	インテリア、模型製作①
	13. インテリア模型製作②	インテリア、模型製作②
	14. インテリア模型製作③	インテリア、模型製作③
第32回～	15. 最終プレゼンテーション①	プレゼンテーション、個別作品講評会①
	16. 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会②
第34回	17. 最終講評会	各作品全体講評会、インテリア設計のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週